なかま No.95

THE 50th
ANNIVERSARY

since1973
B.S.MACHIDA13

発行：ボーイスカウト町田第 13 団広報 2024 年 12 月 年間総集号
日本ボーイスカウト東京連盟町田地区町田第 13 団

『夏キャンプでの思い』

育成会長　中村　孝志

今年の夏キャンプは私の友人の故郷である福島県の会津金山で行われました。

電車を乗りついで10時間以上を要した長い長い旅は、スカウト達も初めての経験だったと思います。

古民家を利用した宿泊地を拠点に、山、河、湖の中で大自然を満喫し、特に自然に湧き出る炭酸水は、ボーイ（スカウト達）の憩いの場所でした。ビーバー、カブ隊たちの川遊び探検、湖水浴もとっても楽しそうな笑顔がこぼれていました。もの凄く澄んだ水、おいしい空気、満天の星、みなぎる緑の樹木。本当の日本の原点の田舎の体験は、これからのスカウト達も永遠に心の中にのこっていることでしょう。

バックアップして頂いた、友人の栗田先生、金山町役場の方々、関係者の方々に心からお礼を申し上げたいと思います。

この様な楽しいキャンプを、是非とも体験してほしい。その姿を親御さんに見て頂いて素晴らしい子育てをしてほしいと思いました。

＊＊＊

『年末を迎えて』

団委員長 田地　司

この号が発刊される時には、すでに年末になっていることと思います。今年は、年初の能登半島地震から始まって、夏キャンプ直前には南海トラフの地震注意喚起が発出され、また台風が直撃するのではないかという状況でいつになく、危機管理の必要性を認識させられた年でした。そんな中でも、さくら祭りや学園夏祭り、そして奥会津への夏キャンプを無事終了したことは、皆さんの理解と努力の賜物であると感謝いたします。

また今年は、初めて他地区のスカウトを迎え、こどもの国での「BP 祭」を開催し、総勢で100人を超すスカウト、指導者が参加し、久しぶりに大きな集まりとなりました。これは、今後の我々の活動の示唆を与えてくれるプログラムになったと考えています。

今年のスキー訓練は、町田1団と合同で湯ノ丸温泉スキー場へ行ってきます。これは、文科省の「体験の風を起こそう、こども夢基金」の一環のプログラムであり、これもまた我々の今後の活動に大いに利用できるものと考えています。

加盟員が減少する中、13団では少しずつではありますが、新規入隊のスカウトを迎えることができています。皆さんの大きな情熱が実を結びつつあると思っています。

来年も皆様にとって良い年でありますよう、また13団にとっても大きな実りのある年であることを祈っています。

＊＊＊

『ローバー隊だより』

ローバー隊長　木村　孔紀

日頃よりスカウト活動へのご理解ご協力誠にありがとうございます。おかげさまで今年度の RS 隊は12名が所属する大所帯となりました。保護者の皆様や各隊の指導者の尽力により、多くのスカウトを RS 隊に迎えられました。

一方で今回の夏キャンプの参加者は3人と少し寂しいものとなってしまいました。大学生活や私生活の合間を縫っての活動となるので、RS が全員揃っての活動というのはやはり難しいのかもしれません。しかし、少人数ながらも活躍を後輩スカウトに見せることができたかと思います。

昨年の夏キャンプから始めた RS ナイトというイベントは、RS が13団の皆様に夕食とナイトゲームを提供するものですが、今回は人数が少なく VS の手も借りながらも無事に成功しました。またキャンプファイヤーの運営も担当し、天気の影響で室内での開催になってしまいましたが、それを感じさせない盛り上がりを見せてくれました。

この一年間を通して、RS 隊は BP 祭やどろんこラリーなど様々な団行事の運営を担当してきましたが、独自で活動する機会も増えてきました。先日も夏キャンプの反省を活かしRS独自の訓練キャンプを行ったりと活動の幅も少しずつ広がってきています。

大所帯で活動も活発になってきた RS 隊ですが、最終学年である以上「卒団」というものがあります。ボーイスカウト活動の目的は「良き社会人の育成」であり、卒団するスカウトたちは今まで学んだことを活かし社会で活躍してもらわなければなりません。ここ数年は対象者がおらず、あまり意識することはありませんでしたが、今度の3月には卒団するスカウトがいます。寂しくはありますが、これからの彼らの活躍が楽しみでもあります。残り少ない期間ではありますが、悔いの残らないよう活動してもらい、後輩スカウトにその技能や伝統を引き継いでいってもらえればと思います。そして卒団後に社会で活躍している話をいつか後輩たちに語ってくれたら嬉しいです。

＊＊＊

『ベンチャー隊だより　～ひとつおき世代での運営～』

ベンチャー隊長　永山　雅人

2024年度で実質的に活動ができたのは、2023年中は高2世代のみ、2024年4月からは高1世代のみという世代が不連続になっている状況ですが、そんな中でも2024年度の活動としては、２つの成果がありました。

1つ目は、団として初めて積雪期における赤岳鉱泉でのキャンプを行い、厳冬期でのキャンプや雪上訓練を行いました。積雪期の赤岳鉱泉はキャンパーではなく、クライマーのみがいる世界でした。

2つ目は、完成度の高い通信塔を夏キャンプのプログラムの中で作り上げることができました。確実に作り上げるために7月キャンプから準備を行い、シミュレーションや事前訓練をしっかり行うことで、本番では昼過ぎには完成させることができ、安定感のある美しい通信塔を完成させることができました。

全てはスカウトの努力の賜物です。

ベンチャー隊からは自分たちがやりたいことをやれるようになるのですが、それを実現するための計画を立てることが不慣れなため、計画の概要だけがある中で、活動を始め、活動中に詳細を決めていくという走りながら考えるところからのスタートでした。

実行することは楽しいから早く実行したいのに、それを実現するための計画を立てられない、形に落とすことができない状況が続きました。

何度かプログラムを実行する中で、1年で最大のイベントである夏キャンプの計画を立てる段階になりました。

夏キャンプの前、数回にわたる会議の末、ギリギリではありましたが、計画書を自分たちの手で作ることができました。

今年の夏キャンプは台風に翻弄させられました。出発直前に現地への直撃予報が出ていたため1日延期、キャンプ終盤には帰路の列車運行に影響があるかもしれない別の台風が来ていたりしました。結果的に見れば、幸いにも台風の影響を受けない場所でのキャンプになり、夕立に1度降られただけで、青空の下、真夏を感じるキャンプ生活を送ることができた夏キャンプとなりました。

せっかく作った計画書が初日から変更させられ、キャンプ中にも他の隊との動きの中で予定どおりに進まず、きっといらいらしながらも修正を行っていく、そんな中で、今回のキャンプで軸となるパイオニアリング章につながる通信塔の作成を完遂することができ、通信塔自体も歴代最高と評されるものを作り上げたスカウトの努力は、彼ら自身の成長につながったと思います。

参加していたベンチャースカウト3人は、時が経つに連れ、話し合いながら物事を進めることを自然と行えるようになっていたと思いました。

現在高1のスカウトが、活動できる2年の間に、今後学年に間隔が空いてもノウハウを引

き継げていけるようなベンチャースカウトの礎を作ってくれることを期待します。

中3、高3と受験世代が2つあるベンチャー隊の運営の難しさを実感しつつも、どんどん理解し成長していくスカウトの素晴らしさも実感した年度でした。

保護者のみなさま、隊の活動にご理解・ご支援いただきありがとうございました。
他隊の隊長・副長のみなさま、隊活動の中にベンチャースカウトを呼んでいただきありがとうございました。後輩スカウトを指導する中で彼ら自身がリーダーとしての役割を学べる貴重な機会をいただけたと思っております。

＊＊

『ベンチャー隊便り - 副長として、野行として思うこと - 』

VS 隊副長　本田　裕輔

スカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。
2024 年を振り返ると、ベンチャー隊の副長としての活動より野行として他隊の支援に費やす時間が圧倒的に増えました。
とは言え、４月から本格的に活動を始めた４人の高１スカウトとの活動内容が薄くなったわけではありません。やはり４人いることにより、やりたいことのバリエーションが増え、主にキャンプの内容も充実したものになったように思います。特に７月のキャンプでは通信塔の設計と運用から計画するという今まで私が経験した中でも３本の指に入るベンチャー隊らしい活動ができました。
一方、野行ではビーバー隊からボーイ隊まで支援させていただきましたが、スカウト数が多かったころと同じプログラムを実施するのが難しい状況にあります。特にカブ隊では組ごとの競い合いのみならず、営火やストーリーハイクなどのプログラムもままなりません。正直デンリーダーがいたほうがよいなと思ったことも何度もありました。
どのようにすればスカウト数が増えるのかいまだ検討も尽きませんが、地道に組拡活動に協力していきたいと思います。

＊＊

『BS 隊だより』

ボーイ隊長　廣石　透

2024年度は佐々木大和君が入隊してくれたおかげで、中学2年の BS スカウト達が大和君に教えるという行為を通じて、大和君自身の成長だけでなく、中学2年のスカウト達自身が目覚ましく成長したと感じています。スカウト活動はビーバーに始まりローバーまで、先輩・後輩の縦の繋がりの中で成長できる非常に貴重な場だと感じています。その集大成が夏キャンプですね。

今回初めて夏キャンプに全日参加させて頂きました。下見にも行かせて頂き感じたのは、この素晴らしい夏キャンプ実施にあたり、本当に多くの皆さんの支えがあって実現しているということです。ご準備いただいた皆様、誠にありがとうございました。無事安全に終了したのは本当に皆様のご支援のおかげです。そして、金山町の炭酸水・沼沢湖の水遊び・横穴登りなど個人では経験できない体験をさせて頂きました。

ベンチャースカウトが企画したパイオニアリングをボーイスカウトが実装し、カブやビーバーに利用してもらうという経験から、各スカウトは自分がもう少し成長したらこうなるんだろうな、というロールモデルを見つけることができたのではないかと思います。ベンチャーが実践しているように、自分で企画し、人を巻き込んで、成し遂げていくという経験はかけがえのないものです。ボーイスカウトのいいところは、仮に失敗したとしてもなぜ失敗したのか、次に成功するにはどうしたらいいのか、周りにアドバイスしてくれるリーダー、スカウトがいっぱいいて支えてくれるところです。そのような素晴らしい環境を活かすも殺すも自分次第です。是非様々なことにチャレンジしてください。

今年度の BS 隊年間テーマは『見る前に跳べ(Leap before you look)』です。経験値の高いスカウトやそうでないスカウトも、自分の中でなにか一つでもチャレンジすることを決めて、恐れずにやってみましょう。言われたことをやるより、自分でやりたいことをみつけ、提案し、みんなを巻き込んでいく方が圧倒的に面白いはずです。経験値の高い先輩から鋭いツッコミもあると思いますが、めげずに自らチャレンジして飛び込んでいくことでより多くのことを学べると思います。今年は、期初にやりたいことをスカウト全員から聞きました。熱く語ってくれた内容になるべく添えるようプログラムを考えていきたいと思います。

正直、私自身、今年度から隊長になるということ自体が非常に難易度の高いチャレンジです。リーダーやスカウトの皆さんと比べ経験値が足りず、技能が足りないと実感していますが、温かいリーダーの皆様に支えて頂きながら、隊長にふさわしい人間になれるよう一歩一歩皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。私もチャレンジしていますので、皆さんも一緒にチャレンジしましょう。どんなことにチャレンジして結果がどうだったか、スカウト会議でみんなに教えてくださいね。

今年度もよろしくお願いいたします。

＊＊＊

『新たなステージのはじまり』

BS 隊副長　宮本　隆太郎

９月からボーイスカウトの新年度がスタートしました。今年は、ボーイスカウトのリーダーになってちょうど 20 年目という節目の年で、新たに BS 隊長を廣石さんに引継いでいただくことになりました。

自分自身、ずっと BVS 隊長をやってきたイメージが強かったのですが、振り返ってみると BVS 隊で９年、BS 隊で 10 年と、既に BS 隊のほうが長くなっていることに気づきました。2017 年度から BS 隊長を拝命して６年が経過しました。その間、コロナで活動自粛を余儀なくされる期間もありましたが、ボーイスカウト活動の在り方や存在意義などについても思いを巡らせることができました。

隊長としての任務は責任が伴うものであり、仕事との調整などで大変なこともありましたが、それ以上に充実した濃密な日々を送ることができました。スカウトたちの成長を見守りながら一緒に活動をしていくなかで、私自身もたくさんの学びを得ました。仲間と協力し合って困難を乗り越えるスカウトたちの姿や、いつも明るく楽しく元気よく前向きに活動してくれる様子に、私は何度も励まされ、勇気をもらいました。私にとってかけがえのない、大きな財産となっています。

今後は廣石隊長をサポートする立場で活動を続けてまいりますが、スカウトたちがより良い環境で成長できるよう微力ながら全力を尽くす所存です。

最後に、これまで一緒に活動してきた全てのスカウトたち、リーダー、団関係者、保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。私の勇退？が新たなステージの始まりとなり、皆さんとともに 13 団の活動がますます盛り上がることを願っています。

ありがとうございました。そして、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

＊＊

『夏キャンプを終えて』

BS 隊副長　今田　智治

約 20 年ぶりに 13 団に復帰して久しぶりの、そして指導者とは初めての夏キャンプでしたが、多くを学ぶことができました。

今回のキャンプ地は福島県大沼郡金山町と移動にほぼ１日を費やすような遠方で、かつ電車の便も限られるなど時間的な制約が多く、また直前で南海トラフ臨時情報や台風の直撃予報が出る、初めての水泳プログラムが組まれるなど開始前から様々な要素が散見していました。

スカウトのころは行って予定されたプログラムをこなし、苦しみながらも楽しんで過ごせばよかったのですが、指導者としてはどのようにしてスカウトに安全かつ多くの経験をしてもらうかを、長期にわたりかつ個々のプログラムが、ひいては夏キャンプが無事に終

了するまで気にかける必要がありました。自分がこれまでしてもらっていたことを、知り実践することはよい経験になりました。

　またスカウトたちの普段の活動とは違う夏キャンプだからこそ見える成長した様子、夏キャンプでしかできない活動を楽しむ姿は、指導者として参加したからこそ知ることできたと感じています。

　幸い直前までの予報とは異なり天候に恵まれ、各プログラムもスカウトが楽しんだ様子が見えつつ、大きな問題が起こることもなく無事終えることができました。

　スカウトにはこの一年で学んだことを今後に活かすように、そして私自身スカウトにそうしてもらえるように今後の活動に今回の経験を活かしていきたいと考えています。

＊＊＊

『カブの風に吹かれて』

カブ隊長　甲田　秀行

こんにちは！カブ隊長の甲田です。昨年の「なまか」に寄稿した投稿が周囲の方々と比べて少しチープな気がしましたので、今年は少し志向を凝らしてみようと思います。（右下）

今年の夏キャンプの感想を一言でまとめると「予想以上！」と言い表すことができる。昨年の今頃は団協で「夏キャンプの場所がない！」ということから始まり、どういうご縁か中村育成会長のご紹介の元「金山町」でキャンプをすることができました。

わがカブ隊においても、金山町での夏キャンプを最大限楽しくすべく、下見、調査を踏まえて最高のプログラムを展開できたと考えています。一番記憶に残っているのは沼沢湖での水泳大会。このプログラムは当初はなんてことないプログラムと思っていたが、山の中にある湖で天然のビーチがあるのだ、水も温かく半日スカウト達と楽しく過ごせたと思う。

あまり、水のプログラムがない１３団にとってとても貴重な体験ができたと思う。加えて毎日夕刻にみんなで行く「温泉」、天然炭酸水はスカウト達も楽しんでくれたと感じています。

年度の締めくくりである「夏キャンプ」を無事に楽しく過ごせたことに食事やスカウト達への支援をしていただいている各隊の指導者および団関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもご支援の程よろしくお願い致します。

２０２４年　CS 隊長　甲田　秀行

今年は久しぶりに BS 隊への上進スカウトが誕生しました。

＊＊

『ビーバー隊便り』

ビーバー隊長　柾谷　禎子

いつもスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

ビーバー隊の活動が一年間を大きな事故なく過ごせたことは保護者の皆様、そして他隊の指導者、スカウトのご協力があったからこそと感謝申し上げます。

一年間の活動を振り返ると、やはり大きなイベントとしては夏キャンプだったかと思います。遠い福島でのキャンプはビーバー隊として参加することを断念しようと思っていました。しかし、保護者の方からキャンプに参加したいと心強いお言葉をいただき、参加することにしました。昨年の家族単位でテントに寝るのとは違い、起きてから寝るときまで常に仲間と一緒というのはスカウトたちにとっては初めての経験でした。なるべく保護者の方から離して、と思いつつも保護者の方のご協力をいただけたおかげで3泊4日無事過ごすことができ

ました。只見線に乗ったこと、滝沢川の甌穴で水遊びをしたこと、肝試し、炭酸水を井戸から汲むこと、通信塔に登ったこと、バーベキュー、流しそうめん、すいかわり・・・通常の夏休みでは体験しきれないほど濃い内容のキャンプに参加できたことはスカウトにも大人にも代えがたいものだったと思います。夏キャンプはビーバー年代でもいつもの隊集会の集大成だと改めて感じ、夏キャンプにむけて一年間のプログラムを積み上げていくことの大切さを実感しました。

隊長としての一年目、まずはスカウトにとって楽しい隊集会をしていきたいという気持ちで臨んでいました。スカウトたちはいつも目をキラキラとさせて活動に参加してくれています。二年目もっと練った隊集会を今後も作り上げていきたいと思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

＊＊

『スカウトの進歩』

ビーバー隊副長　原　敏文

ボーイスカウト活動へのご理解、ご協力ありがとうございます。

スカウティングは、魅力にあふれる活動です。

世界中の数多くの仲間たちが、この運動に参加しています。ハイキングに出かけ、自然の中で活動して、満天の星空の下でテントを張ってキャンプを楽しむ、仲間との活動は君に健康な体と、役に立つ技能と知識を与えてくれます。（進歩の手引き一部抜粋）

進歩面接は BS 入隊から始まり、初級→2級→1級→菊→隼→富士という順番です。進級課目を終了し、BS 隊面接を行い（隊長の推薦）で次に団面接を行い進級にふさわしい態度や活動内容であったかなどを進歩委員が見極め、進級記章を授与します。もちろん面接内容によっては再面接する場合もあります。

スカウトは活動に参加して進級にどんどん挑戦してください。スカウトの成長を応援し見守って行きたいと思います。

書籍をご紹介しますので、感想を聞かせてください。

椋　鳩十（むく　はとじゅう）の「感動は心の扉を開く」

夏キャンプ感想文

『夏キャンプ（福島県）』

カブ隊１組しか　柾谷　唯人

8月13日火曜日に5時56分の玉川学園の電車委のって登戸でのりかえて北千住でリバティきぬ105号に乗ってきぬ川温泉で AIZU マウントエクスプレス1号にのって西若松でお昼ご飯をたべて、西若松から会津大塩まできて、古民家「かくじょう」につきました。かくじょうで荷物を整理をしたら、開村式をやりました。舎営準備（デン作り）をして新聞作りをしたら夕食準備をして夕食この日の夜ご飯は、うどんでした。さつまあげがのっていました。その後は大塩温泉に行きました。そのあと健康調べをしてねる準備をして今日のふりかえりをして、ねました。

二日目はブッレックファーストを食べたら、沼沢湖に行きました。沼沢湖では水泳をして、真ん中の方にあるきいろのうき島があってそこから飛びこみました。泳いでいける一番おくにあるネットのところまでふじきさんと市川リーダーと行きました。聞いた話によると一番深いところは、96mで活火山らしいです。もどって熱をはかったところ37℃ありました。その日のぼんおどり大会とナイトゲームはぼくだけいけなかったです。

三日目はブッレックファーストを食べたら、おう穴にハイキングに行きました。おう穴は川になっていてとても水がつめたくてかたまでつかるのにゆう気をだすのに5分ぐらいか

かるほどのつめたさです。もどってカレーをたべてやすんだら先ぱいたちがつくってくれた通信とうにのぼりました。その日はローバーナイトがあって、今回は東北のきょうど料理を作ってもらいました。その日のナイトゲームは、きもだめしでした。2人1組で行きました。

4日目はバベキューと流しそうめんをしました。流しそうめんは量がめっちゃ多くてバーベキューの肉の量えげつなかったです。そのあと、流しそうめんの竹が真ん中で落ちました。スイカわりはみんなあたってもわれなかったけどぼくがやったらわれました。その日の夜はキャンプファイヤーをやりました。いろんな隊がスタンツをやって、ぼくたちは「夏キャンプあるある」でした。

5日目はとにかく帰りました。只見線で小出まできてじょうえつ線で浦佐から新かん線で大宮まできてしょう南新宿ラインで新宿まできて、小田急線で帰ってきました。ぼくは、はじめて福島に行ったし、新潟にもはじめてだったし、新かん線もはじめて乗ったから、はじめてのことだらけでとても楽しかったです。またいつか行きたいです。

＊＊

『夏キャンプの思い出』

1 組くま　藤木　亮成

ぼくは、八月中旬に夏キャンプに行きました。その五日間の中で、楽しかったことを発表します。

一番楽しかったのは、沼沢湖で泳ぎに行った事です。水温は、あたたかく気持ちを良かったです。しかしおくまで行ってみると水温がつめてくなってきて岩がとてもごろごろありました。

さらに一気に三メートルから四メートルまで深くなっていました。そしてはしのネットに着いた時はとてもうれしかったです。

ぼくは、来年からボーイ隊なので先ぱいとして後はいを助けたりしていきたいなと思いました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『サマーキャンプの思い出』

1 組うさぎ　町田第五小学校　市川　竜真

全部楽しかったけど、三つ一番楽しかったことがあります。

一つ目は、水遊びです。なぜかというと。川で泳いで気持ちよかったり、アイスを食べたりしたからです。

二つ目はたんさん水を飲んだことです。なぜかというと、自ぜんにつくられているものにたんさんが入っていて、たんさんがなかなか消えないことがびっくりした。

三つめは、バーベキューです。なぜかというと、はじめて鳥の丸やきを食べたからです。野さいもおいしかったです。

せい長したことは、今まですらすらとあんまり言葉が人の前で言えなかったけど、出し物で、きんちょうしないでスラスラ言えるようになりました。

たい長たち、お世話になりました。

また行きたいです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

『一級としての夏キャンプ』

ボーイ隊　荒　旬之輔

今回の夏キャンプでは先輩がいない中でのキャンプであった。さらに人数も少なくなり全員でたったの５人。キャンプ場は福島にあり、移動だけでも大変だった。そんな中でのキャンプで僕は少し不安だったが、パイオニアリングも楽しみであった。パイオニアリングは四日目で、ハイキングと水泳の後だったので少し疲れてはいたが、最終的に去年よりすごく頑丈な通信塔を立てることができて、自分の中では満足度が高かった。なぜ満足度が高かったのかというと、立てた日の前夜に行ったパイオニアリングの説明のせいだった。ベンチャーの先輩や指導者方の緊張感ある話し方で、僕もみんなも一言も喋らず、凍りついたようにただ真剣に話を聞くだけであった。だから、プレッシャーが多い中でも頑丈に立てた通信塔なので技能向上にもなり、良い経験だと思った。

今回のキャンプの良かったところは、時間通り行動することができたところだ。いつものキャンプの場合、片付けなどの時間にみんなと雑談をしてしまい、スカウト会議の時間を延ばさなければならない時があったが、今回ではほとんどなく、みんなが意識できたのだと感じた。また、料理や設営、撤営などもスムーズにでき、料理は全て美味しく調理することができたので、今回は「現実」が「理想」に近づいてきたのではないかと思う。

逆に、今後改善すべきところは、班の中で役割分担をして先を予測しながら行動することだ。今回、リーダーに何回かそこを注意されて僕自身も班を動かすにあたって重要だと思ったので、次のキャンプから実践したい。

このキャンプではパイオニアリングなどの技能を向上できる行事があったおかげで、自分の技能がさらに上達することができたと思う。さらに、自分の技能が試された場面でもあったが、実際に通信塔に登ってみてとても頑丈にできていたので驚きもあり、達成感もあった。今回身につけた技能をまた次のキャンプで活かしたいと思う。

最後に、台風や地震が予想される中、このキャンプの運営に関わってくださった団委員長をはじめ、隊長やリーダー方などに感謝したいです。

＊＊＊

『夏キャンプふり返りレポート』

ボーイ隊　佐々木　海利

今年の夏、私は夏キャンプに参加し、貴重な経験を積むことができました。普段の生活から離れ、福島の美しい自然の中で過ごした一週間は、ダラダラしやすい夏休みの中で自分を見直す時間となりました。この訓練を通して感じた事は、何と言っても仲間との協力の大切さです。一人で実行するのがむずかしいと感じる事でも、他スカウトや先輩達の助けを借りることで、乗り越えることができたと思います。特に、パイオニアリングをするときは、全員がお互いに支えあい、前回の失敗もふまえて、より良いものを造りだすことができたときは私にとって大きな成長を感じさせる瞬間となりました。また、自然の中で過ごすことで、普段の生活で忘れがちな「当たり前に提供される物」への感謝にも気づくことができました。壮大な自然の中で美しさにふれることによって、自分がいかに小さな存在であるかを再認識し、それでもその中で自分ができること、やるべきことがあることを考える良い機会となりました。振り返ると、この一週間で学んだことは非常に多く、それぞれが今後の私の成長に役立ってくれると思います。キャンプが終わった後、私はジャーナルという習慣を新たに生活の中に取り入れ始めました。その内容は、自分が感謝していること、目標などを毎朝ノートに書くというものです。今までずっと続いており、始めてから心が豊かになったと感じることができます。

このキャンプは私にとって忘れられないものとなりました。これからも、今回学んだことを活かし、成長し続けたいと思います。

＊＊＊

『夏キャンプ作文』

ボーイ隊　廣石　櫂

今回の夏キャンプでは、主に技術を向上させることができたと思いました。体力を活かす場面が今回はハイキングしかなかったからです。具体的には、通信塔を建てたことで、角縛りがほぼ全員できるようになったことです。実は私は、少し前から立ちかまど、角縛りの技術において不安があったので、今回のキャンプでその不安が消え、満足しています。次は炊事についてです。前回、前々回の夏キャンプと比べて、自分や班の炊事能力が大幅に上がったように感じられます。前回などは米を炊くとき、いつも下の方が焦げてしまっていましたが、今回はほぼそんなことが無く、皿洗いが非常に楽になりました。こうした技術の向上により、キャンプ自体に余った時間が発生し、その分をさらに技術向上に充てることができました。逆に、このキャンプ中にいくつか至らない点もありました。例えばバーナーの使い方を班の全員わかっていなかったことや、夜、消灯時間後に物などがテーブルの周りに置いてあったりすることが多々ありました。どちらも初歩的な、少し考えれば直すことができる問題なので、次のキャンプからそういったことに気をつけていきたいです。今回のキャンプでは、人が少なくなってしまったこともあり相対的に重要な仕

事を前回より受けることが多かった印象です。先輩としての姿を見せることも多かったように感じます。自分は、かなり昔から同期と比べて技術が無いといわれていたので、先輩として後輩に指導できるようになり、自分の成長を実感しています。とはいえ、まだまだ学ぶべき技能はたくさんあるので、先輩としての責任に応えられるような人になりたいと思いました。そして、いつか人に教えられるほど技術を向上させてみたいと思いました。

＊＊

『夏キャンプの作文』

ボーイ隊　佐々木　大和

ぼくはこの夏キャンプで学んだ事がたくさんあります。

まず、あたりまえの事ではあるのですが電車でのマナーです。「電車の中では静かにする。」これは人としてのマナーですが、先輩たちとの笑い話でついもりあがってしまい、まわりの人にめいわくをかけてしまいました。ボーイスカウトでは、目的地にむかうために電車に乗る事が多くなるので次回のキャンプなどの電車に乗る時には夏キャンプの失敗を生かしていきたいです。

その次は設営での工夫です。設営では、テントを先に立ててから食テンを立てたのですが、食テンのタープがどうしてもテントの入り口に前に立てなくてはいけない状況になり、海利先輩と荒先輩がタープを二重にするアイデアを思いつき、見事成功させているのを見て、状況に応じて工夫をほどこす事が大事という事がわかりました。

三つ目は山の登り方です。山を登った時に道が狭い事がかなりの頻度であったのですが、ぼくは高い所を見ると足がすくんでしまい、なかなか前に進めない事がありました。しかし、そのたびにベンチャー隊の本田リーダーや永山隊長にサポートしてもらい、落ちないためにはどうするかなどを教えてもらいました。なので、次回の登山では、今まで教えてもらった事を生かして、ボーイスカウトとしてカブなどにも山登りの技術を教えていきたいです。

四つ目は料理です。料理では、大体みんなで仕事を分担して動くのですが、ぼくは自分の仕事が一つ終わるたびに「次はなにをすればいいか。」と聞きに行ってしまうくせがついてしまっていて、それにたいして先輩たちから「自分でやるべき事を考えろ。」と言われて

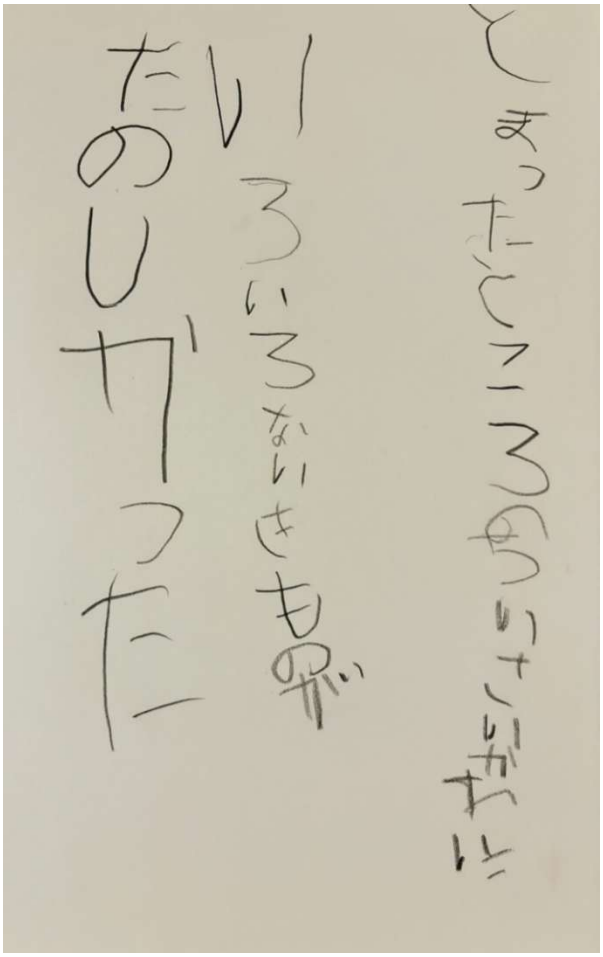
しまいました。たしかに今までぼくは指示された事をやっていただけでしたが今度からは、設営の時のように状況に応じて自分で動けたらいいなと思っています。

「この一年で学んだ技術を夏キャンプで発揮できたか。」ぼくはまだ言いきれないほどの反省点があります。自分の反省もみんなとの反省もあります。しかしぼくは、「ミスをしてしまったな、あ～あ。」では終わりたくありません。何度も言いますが、ぼくはミスをして終わりでは何も成長がないと思うので今年の夏キャンプでのミスを生かして、意識して次回のボーイスカウト活動にとりくんでいきたいです。

＊＊

『夏キャンプの感想』

ビーバー隊　中田　丞一郎



＊＊

避難場
AED

『VS 隊の今、そしてこれから。』

ボーイスカウト町田第１３団 VS 隊
宮澤　陸人

今年の VS 隊の活動は、私自身や隊全体の活動にとって大変大きな転機を迎えたと考えている。
上級スカウトが休隊する中、同級生のスカウトとどのように活動していくのか。何を目標とするのか。高校に入学するタイミングと重なったこともあり、いろいろな不安が渦巻く中で、今年はとても実りある活動が多かったと感じている。

今年最大の成果といえば、本格的な計画書を自分たちの手で製作し、デジタル機器を駆使しつつ具体性のある活動計画をたてられたことだと思う。今までのキャンプは、どちらかといえば受け身のケースが多かった。具体的には、隊長やリーダーから指示されたことをやっていき、それを遂行していくことが「スカウト活動」というスタンスが目立った。しかし、計画書を自分たちの手で製作することができた甲斐あって、今年は同級生のなかま３人とともに、協力しつつ自分たちが“やりたいこと”に焦点を当てて活動できたと思う。例えば、夏キャンプで行った通信塔制作などが代表例だと思う。私自身は残念なことに参加できなかったのだが、個々が必要な作業や準備をあらい出し、７月のキャンプから試作を重ね、綿密な計画を練ったことが自分自身にとっての大きな成長だと感じているし、通信塔製作の成功に繋がっていると確信している。

しかし、自分自身の課題も目立った。それは、学校生活との両立だ。今年の活動の出席回数はかなり低く、宿泊を伴うキャンプは片手で数えるほどしかできていないだろう。来年は、VS 隊の活動と学校生活を両立させるために優先順位を明確にさせて、あと後のことを先回りで考えて VS 隊の活動にも余裕を持って参加できるようにしていく。

私は、来年の活動にとてもワクワクしている。１月には雪山に行って、普段は味わうことのできないキャンプ体験をしようと計画した。また、５月の GW には釣りができるキャンプをしてみたいという思いがある。このように、自分自身の好奇心を常に持ち続けて今後のスカウト活動も励んでいきたい。さらに、その活動の延長線上に VS スカウトの大きな目標の１つである隼章があると思う。スカウトとしてのスキルを高めるためにも、隼章の取得に全力で取り組みたい。

＊＊＊

『VS で学んだ大切なこと』

ボーイスカウト町田第 13 団 VS 隊
佐々木　永遠

今年の VS 隊の活動では幅広い知識を得る事ができたと感じている。
まず一番最初に直面した壁として、活動の計画書の作成についてだ。これまでボーイ隊では計画書はもともと作られているもので、隊長が作った計画通りに活動をするのが中心だった。それが VS の活動は計画から活動までスカウトで行うことになる。したいことや達成したいことが明確でないと計画を立てることが難しいことに気づいた。計画書のテンプレを作り、次に作るのに苦労をしないようにしたり、スカウト同士で日程を調整して話し合い、正確な計画書を作るために工夫を重ねた。全員が納得する形で計画をまとめ上げることで、少しずつ協力する力を磨くことができたと感じる。計画書の練度に関してはまだまだ課題が多いのでより良い計画を立てられるよう自分の目標などを明確にして、活動を満足のいくようなものにしていきたいと考えている。

この一年間の活動の中で特に印象に残っていることは通信塔の作成だ。私たちは８月の夏キャンプで通信塔を建てることに成功した。その成功までにたくさんの試行錯誤を重ねていったことが私の中で最も達成感のある活動だった。夏キャンプ自体も計画に多くの時間を割き、当日は台風の影響で１日目が中止になるなどいくつか計画通りにいかないことがあったが、それでも臨機応変に対応し計画以上の夏キャンプを終える事ができた。通信塔に関してはその夏キャンプの前から計画しており、７月には小野路キャンプ場で通信塔を建てるためにたくさんの検討と実践を重ねていった。うまくいかない事がたくさんあったがその問題点を夏キャンプの通信塔作成前日まで話し合い、多くの努力と改善から当日の成功までつなげる事ができたと思う。また、課題に対して深く考え、反省しそれを実行する（ボーイ隊で散々聞いた PDCA サイクル）といった当たり前のことをする大変さと、重要さを実感することができた。

今は隼章、それに続く富士章に向けてスカウト同士で協力している最中だ。今後はその目標を達成するためにより緻密な構想を立ててより良い活動をしていきたい。自分の思っている以上に目標に対しての進捗が遅いので積極的に活動に参加し、目標のための課題をこなしていこうと考えている。

この一年間の活動を通じて、計画立案から実行、そして反省と改善を繰り返す中で、協力する力や問題解決能力を高めることができた。今後もこの経験を活かし、目標に向けて前進できるよう、より良い活動を続けていきたいと考えている。また、スカウト同士で支え合いながら、次の目標に向けて一層努力し、より大きな成果を上げられるよう頑張っていきたい。

＊＊＊

『ボーイスカウトをやっていて良かった』

ボーイスカウト町田第 13 団 VS 隊
木下　誠

今年度、私は大学受験のため、ボーイスカウト活動はお休みをいただいておりました。ここでは、大学受験の結果についてお話したいと思います。

私は、玉川大学の農学部生産農学科を指定校推薦で出願しました。先週面接試験を終えましたが、まだ合否は出ていません。12/10 に合格発表の予定です。この文章を書いているのが 12/7 日のため、あと３日で合否が分かります。もちろん緊張はしていますが、心配はしていません。面接試験を大成功に終わらせることができたからです。

まず、私は面接で話せる内容がたくさんありました。ボーイスカウト活動もその一つです。隼章、富士章は持っていなくても、11 年間積み重ねてきたボーイスカウトの経験、ちかいとおきての実践で、人間性をアピールすることができました。また、玉川大学のアドミッション・ポリシーには【高等学校までに培う「生きる力」の修得を重視します。】とありました。「生きる力」とは、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力。自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性。たくましく生きるための健康や体力。」だと記載されていました。私はこれがボーイスカウトのおきてに似ていると感じ、これだけでもボーイスカウトをやっていて良かったと感じました。

また、部活の面においてもボーイスカウトとつなげることができました。私は高校３年間、山岳部に所属していたのですが、そもそも山岳部に所属したのも、ボーイスカウトで登山を好きになったのがきっかけでした。パッキングや安全計画など、ボーイスカウトで培った登山の技術を部活でも共有し、山岳部をより良いものにしようと努力してきました。その結果部長にも就任し、学校の代表としても活動しました。ここで発揮できたリーダーシップもボーイスカウトで班長や次長として活動した経験があったことによるものだと思います。面接試験でたまたま面接官が元山岳部だったこともあり、登山の質問が多かったのですが、ここでボーイスカウトと部活の両方で登山を行ってきた経験を存分に活かして話すことができたので、面接官に良い印象を残すことができたと思います。

私が農学部に入りたいというのも、将来耕種農家になりたいという目標があるからであって、そのきっかけとなったのがボーイスカウトで自然の中で活動してきたことでした。今考えてみると、私のやりたいこと、興味のあることのきっかけとなったのは、ほとんどボーイスカウトによるものだと思います。登山が好きになったのも、自然が好きになって耕種農家になりたいと思ったのも、キャンプやスノーボードも、最初は全てボーイスカウトで経験したことが元になっていると思います。ボーイスカウトをやっていなかったら今とは全く違う趣味、生活、目標だったと考えると、ボーイスカウトをやっていて良かった

と改めて感じることができました。これからも興味のあることに全力で取り組み、楽しんだり、将来耕種農家になれるよう、努力していきたいです。

＊＊

『ボーイスカウト活動を通して』

ローバー隊　西野　颯人

ボーイスカウトに出会えてよかった。そう思うことのできる最高な時間でした。

私は小学 1 年時に入団し今年でスカウト歴 15 年とボーイスカウト活動が私の人生の中で欠かせないものであったと感じでいます。

今までの活動を振り返り、一番の思い出といえば WSJ に参加したことです。

私が参加した際は、開催地がアメリカで私自身初めての海外であったこと、まだ知らない日本、海外のスカウトたちと交流できたことで、日々のスカウト活動では体験することのできないイベントであったからこそ、あの時 WSJ に参加した際『世界は広いな！』『こんなにも知らない景色がたくさんある！』と感じ、多くの発見をすることができたと、知らないことに挑戦すること、他のスカウトとの交流が何よりもスカウト活動の中で大切なものであると多くを学ぶことができました。

また、学業との両立をする上でボーイスカウト活動にはなかなか参加できないスカウトがいると思います。しかし、スカウト活動は活動をするだけにあらず。団行事やお祭りでのお手伝いと、さまざまなイベントがあります。参加が難しくても何かしたいと考えているスカウトは自分から隊長にこんなことがしてみたいと言ってみてください。きっと挑戦することができると思います。そしてその挑戦はきっとスカウトとしてだけでなく自分自身の可能性を広げることができると思います。

私自身もスカウト活動に参加できないからこそ、SNS の運営を行い 13 団の活動を発信していくこと、ボーイスカウトについてより知ってもらうことのできるよう行動してきました。スカウト活動だけに捉われずいろんなことに行動してみてください。きっと新たな発見がそこにはあります。

今後の 13 団の活動がより良いものになりますよう願っています。

＊＊

入隊おめでとう！

2024 年９月２３日　入隊上進式
ビーバー隊　苅部義明くんと
中田丞一郎くん

2024年12月15日　クリスマス会での入隊式
ビーバー隊　中嶋悠人くん（年長）

2024年12月15日　クリスマス会での入隊式
カブ隊　吉田侑史くん（小2）

2024年12月15日　クリスマス会での入隊式
ボーイ隊　宮下晴翔くん（小5）

収　益　報　告

2024年度 お祭り委員

2024 年度は、こどもまつり・さくらまつり・玉川学園夏祭りに出店しました。

団委員長はじめ各隊隊長・各隊リーダー・保護者の皆さまのお力で無事に終える事ができ感謝申し上げます。

ありがとうございました。

純利益はすべてスカウト活動に役立てて頂きます。

★こどもまつり　2023/10/15（日）
純利益　27，659 円

★さくらまつり　2024/3/30(土)～4/1(日)
純利益　321，375 円

★玉川夏まつり　2024/7/26(金)～27(土)
純利益　565，751 円

奉　仕　活　動

◎ 赤い羽根共同募金　2024/10/6（日）
募金額　16，044 円（10/7 に振込完了）

◎ 市内公園９か所について毎月清掃奉仕を行いました。

＊＊

最後に
今後とも、ボーイスカウト町田第 13 団にご支援をよろしくお願い致します。
文中の写真は BAND、13 団 HP から転載しました。